

# コロナから学ぶ。

コロナ禍の休校期間中に感じたことを、  
星陵中の2年生がまとめました。



学校法人 静岡理工科大学

星陵中学校

新型コロナウイルス感染症拡大にともない  
本校も臨時休校となりました。

この休校期間中も本校では  
オンライン学習を中心に教育活動を継続することができました。

クラス担任が毎日出席を取り、授業もオンラインで実施。  
画面越しに生徒の顔を見たり、  
電話越しに生徒の声を聞いたり。

いっしょの教室に居ることができなくても、  
できるかぎり生徒とのつながりを大切にしてきました。

いっぽうで、実際に学校に来ての部活動など  
例年であればできていたことが、  
新型コロナウイルス感染拡大予防  
のためにできなかったこともありました。

こうして、2020年の4・5月は例年とは異なる、  
未曾有の2か月になりましたが、そんな中でも、  
生徒たちは一生懸命考え、感じ、成長してくれています。

制限も多く、不自由な中でも、コロナ予防の理解に努め、  
懸命に挑戦を続ける生徒たちのこうした姿勢を、  
教職員一同、心から誇らしく思います。

この冊子は、星陵中学校の中学2年生が、未曾有のコロナ禍と  
それによってもたらされた休校、またオンライン授業に対して  
考えたこと、感じたこと、学んだことを掲載しています。

世界が一日も早く、安全で健康な日々をとりもどせますように。

★コロナ対応の日々改めて友達と会話したり遊んだりすることの大切さを感じました。外に必要以外は出られない日々を過ごしていく中でオンラインでゲームなどでは一緒に遊ぶことができても直接会って表情を見て会話をすることができないので違和感を感じたり、友達と遊ぶのであれば、楽しく運動したりできると、1人になるとなかなか運動する機会がなく気が向かないなと思いました。

コロナ対応を経験して今後に生かせると思ったことは自分のため人のための行動です。このような経験をしたことで自分のため人のために行動することが大事だと再確認することができました。

普段の生活でも話し合いのときに自分のことだけ考えるのではなく、人のためにどうしたらいいかと考えることも重要だと思うので、危機感を持つことは大切だと思いますが、このような状況だから学べることを学び取っていくのも大切だと思います。

★コロナが始まる前までは普通に学校に行って友達と自由に過ごしていた。けれど、コロナになり休校となった今改めて授業の大切さ、学校の大切さ、友達の大切さを思いました。授業はやはり先生がいての授業が一番楽しいと思います。インターネットなどだとやらないなってしまうたりしているので普通の授業が一番だと思います。

部活もできなくなってしまうと、とても残念ですが部活も先生が教えてくれなくては成り立たないことだと思います。

私たちが今休んでいる時も政治家の人達は日本中の人を思って行動してくれていることに感謝したいと思います。

コロナの影響でみんなが混乱しているがみんなが支え合って協力しているからこそ、毎日感謝を込めて毎日過ごしていきたいと改めて感じました。

★私は、コロナ対応の日々、改めて人と面と向かつて話すことの大切さを感じました。

コロナウイルスによって私達は家にひたすらこもる生活を余儀なくされました。そんな中、私はよく友達とメールで連絡を取り合っていました。しかし、やはり人と会えない寂しさは埋めることができませんでした。メールによる会話は、相手の表情が見られず、文字だけの意思表示になるため、多少の癒しにはなつても、寂しさを埋めることは難しいと感じました。

コロナ禍で、感染のリスクを減らすために人と会うことはみんなが避けていて、仕方のないことです。

しかし、いままでは会話はメールだけでも寂しくないと思っていました。相手の顔が見られないのは思った以上に孤独でした。相手の表情をみることで、より楽しく会話をできるんだということがわかりました。

★コロナ対策で学校が休みに入ってから一か月がたちました。私が今つらいと感じているのは、普段通りの生活ができないことです。学校の勉強や課題はオンラインでできます。友達ともSNSやオンラインでやりとりできます。

でも、家で過ごすことでどうしても生活リズムが乱れています。学校へ通って授業を受けること、部活をすることで規則正しいリズムだったのに、それができないことで運動不足だったり、お腹がすかなかつたり、起床・就寝時間はずれたりしています。毎日何かしらの運動をしたり、家でできることをしていますが、この状態が続くと気持ちも落ち込むし、普段通りの生活を忘れてしまいそうです。

今回のコロナで、普段通りの生活が、自分の心や体を支えていてくれたことに気が付きました。早くコロナが収束するよう、自分もコロナ対策を続けていきたいと思っています。

★コロナウイルスの感染拡大で、人生で初めての経験が多くありました。

これに関して、僕は経済が回ることでどれほど重要かわかりました。何かの分野がストップしてしまつてどんどんほかの分野も止まつていき、金が回らなくなつて景気が悪くなるということは今まで想像したことがなかつたです。

また日本はこれまで観光に経済を頼りすぎていたのではないかと思いました。

もちろん東京オリンピックが開催されるので、観光施設をたくさん用意しておくのはとても大切ですが、何かあつた時のことも考えなければなりません。

そして今牛乳が大量に余つたりその他の食材も余つて値段が低下しているので、例えば普段より牛乳を多く飲むなど、みんなで助け合いたいと思いました。

★コロナのことで大勢の人達が犠牲になりました。それを踏まえて、日々大切さがわかりました。

一日で世の中が変わつていき、外出しただけで日々の人生が変わつてしまいます。

自分たちの一つ一つの行動で人生を変えてしまいます。

そんな危機感を持つて生活していきます。

★臨時休校になつてから毎日が重く過ぎて行つてしまい、どれだけ学校で友達と過ごせているか、とても感じました。

★少しの出来事で世界の大勢の人を巻き込んでしまうことができます。

最小限で止める方法があるならそれに従うこと。緊急事態が起きて必要な物を家に置いておくこと。

何事にも備えることが大事だと思います。

★新型コロナウイルスの影響により、緊急事態宣言が出た今日まで、私は「人の強さ」や「世界の人々の優しさ」に触れることが出来た気がします。

強さは物理的な意味だけでなく、精神的な人の強みや力が人の数だけ集まれば大きなものになるのだと、コロナを通して知ることができました。

こんな状況でも、人のために自分にできることをしている方の姿は私の憧れであり、いつもの日常が戻ったら、直接支えてくれたたくさんの人々に感謝の気持ち伝えるためのボランティア活動や町内活動への興味を持ち、活動したい！と心から思える機会を得られました。

引き続き、かけがえのない日常まで「我慢」するのではなく、辛いことも抱きしめて「辛抱」できるように、ささやかなハッピーをかみしめながら生活したいです。

★コロナが流行して今まで毎日送っていた生活の大切さを感じました。

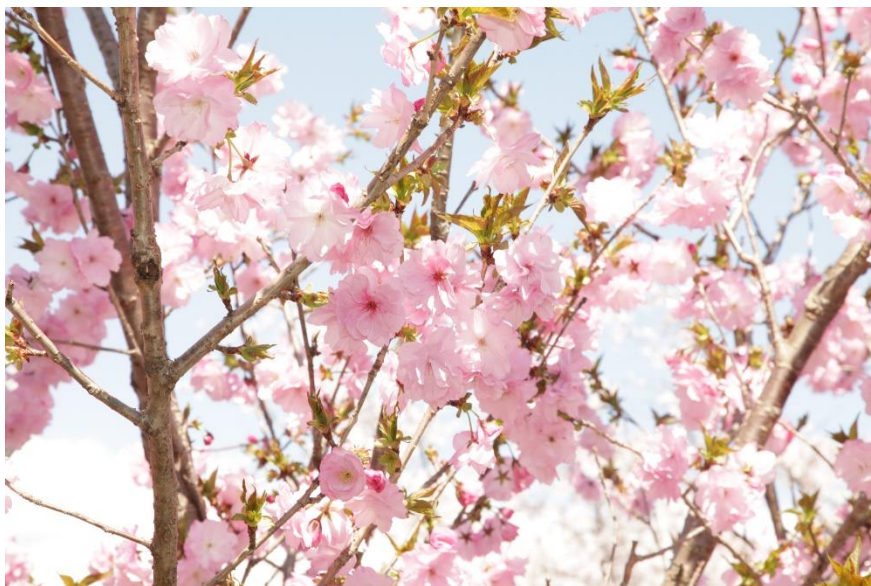
学校に行って授業を受けて友達と話したり、勉強を教え合ったり普段送っていた生活ができないと、とても寂しくなりました。

また、学校に行かないことによつて勉強不足も感じています。勉強のわからない部分は友達に聞いて解決したのですが、友達に会う機会がないので解決することができません。

二年A組での学校生活は例年より少ない日数なので、今後は一日一日を大切に生活していきたいと思えます。

そして、いつも以上に授業を真剣に受け、わからない部分は解決していけるように積極的に教科の先生に質問したりしたいです。

来年こそ、いっしょに桜を見上げましょう。



コロナに負けない。  
学びを止めない。



学校法人 静岡理工科大学  
星陵中学校

